

女性の活躍を
サポートします!

女性のチャレンジ通信

vol.3

地域活動や社会活動を始めたい、活動を広げたい、情報が欲しい…！
 そんな女性たちの“チャレンジ”をサポートする場所「女性チャレンジ応援拠点」。
 開室時間は常時女性のコーディネーターや専門スタッフが在室。
 あなたのお話をうかがいます。そんな拠点からお届けする、ニュースレターです。



▢ スタッフコラム 「拠点にも、実りの秋」

すっかり秋めいてきました。実りの秋を迎えていますが、「女性チャレンジ応援拠点」にも実りが生まれています。

例えば、次のようなケースです。

- ・活動を始めたばかりで、参考になることがあればと初めて拠点を訪れた方が、3ヶ月後にはメディアのインタビューを受ける
- ・ミニサロンで出会った人どうしが、その後も交流を続けて、勉強会を開くなど意欲的に活動している。
- ・スタッフの紹介で参加した被災地の女性支援に関する講演会で心動かされた方が、東北まで講師に会いに行き、実際の活動に関わったことで自身の決意を新たにする。



女性チャレンジ応援拠点は開放的なスペースです。利用いただいた方々からは、「個別相談のような一対一の空間ではないので、構えずに利用できていいい。」との声をいただいています。自分のやりたいことをうまく言葉にできる人は少ないものです。利用者の皆さ

んがチャレンジしたいこと、話したいことは何なのか、拠点スタッフは利用者のみなさんのお話しをしっかり傾聴します。

話をうかがいながら、スタッフから新しいアイデアやご本人にとって参考となるセミナーの情報、他の支援機関の情報をご提供します。また、拠点にはスタッフだけでなく、たまたま居合わせた他の利用者の方も話の輪に加わり、お話をすることができます。

異なった視点の意見や情報の交流が進みますから、お互いのチャレンジ精神に磨きがかかります。様々な考え方や行動力などを知って、刺激し合あうことができます。こうして一つの実りになったのが、先に書いたメディアのインタビューを受けることにつながったケースです。

「女性チャレンジ応援拠点」では、ミニサロンも開催しています。ミニサロンは拠点スペースで開催されるので、定員は10名以内です。各回のテーマに関心をもった方が集うので、＜通じ合う＞ものがあるのでしょうか、初対面どうしでも親しく交流できて、話が弾み盛り上がります。新しい出会いにつながるのも、ミニサロンの魅力です。

秋は気候も良く、いろいろと動きまわるのによい季節です。どうぞ拠点にもお越しください。素敵な発見・出会いがうまれるよう、スタッフ一同努めています。皆さんの来室をお待ちしております。

あなたにぴったりな活動のしかたを
一緒に探していくます。
まずはお気軽にお越しください！



▢ イベント報告

女性チャレンジ応援拠点では、地域活動や社会活動を始めたい、活動を拡げたい女性たちを対象に、ステップアップのきっかけになるようなワークショップや交流会などのイベントを開催しています。

PRのための文章講座 + 発表会＆交流会

平成29年8月26日（土）・9月9日（土）13時～16時

会場：クレオ大阪中央

講師：松永 弥生（ライター エンパシー ライティング認定講師、（一社）痴漢抑止活動センター代表）

コメンテーター：大前 藍子（大阪NPOセンター事務局）、反橋 希美（毎日新聞社 学芸部記者）

中須 雅治（近畿労働金庫 地域共生推進担当）、沢田 薫（クレオ大阪中央 館長）



チャレンジ応援拠点を訪れる女性の中には、仲間や支援者を増やすために「熱い想いを伝えたい」「もっと活動をPRしたい」と思っておられる方がいますが、うまく文章にすることができず苦労している…という方は意外に多いです。今回は、そんな悩みの解消に役立つ、「伝わる」文章を作るスキルを学ぶセミナー＆発表会を開催しました！

文章講座の講師は、ライターであり、痴漢抑止活動センター代表の松永弥生さん。そして、松永さんはチャレンジ応援拠点の利用者でもあります。拠点のサポートや相談機能を上手に活用しながら、ライターとしての経験を活かして活動を拡げておられます。メディアに取り上げてもらうための広報やリリースの効果的な打ち出し方など、自身の経験を踏まえて惜しみことなくたくさんのノウハウを提供いただきました。企画書やプレスリリースの作成にも活用できる、自身の活動をPRする文章を作るためのペアワークでは「今まで何年もかけなくて苦労していた文章がスラスラ書けた」という声もありました。40名以上の参加者はみなさん熱心に取り組まれ、セミナー終了後には、拠点に移動して講師への質問や交流が続くほどでした。

2日目は、作成した文章をもとに、助成金や支援機関の担当者、メディアの方に向けて自身の活動をプレゼンする発表会と交流会を実施しました。19名の方が、4名のコ



メンテーターの前で、作成した資料を元に3分間の熱いプレゼンを披露しました。中には新聞記者の方や企画担当者から「今すぐ取材できそう」や「もう少し詳しく聞きたい」などの感想をいただく方も。プレゼン

はそれぞれに個性がありましたが、活動のきっかけを話す中で感極まってくれる方もおられて、女性が活動や起業を志す理由には、それぞれのドラマがある…ということも感じる会となりました。



コメンテーターからは、「誰に、どんなことを伝えたいのか」「根拠や実績を明確に」「他とどう違うのか」など、プレゼンやリリースに必要なポイントや、メディアで取り上げたいと思うポイントなど、参加者の方のこれから活動に役立つアドバイスが多数ありました。

終了後は、コメンテーターや拠点のスタッフも交えた交流会が行われ、発表者同士の交流からは、コラボ事業が生まれそうな気配も…！チャレンジ応援拠点では、今回発表された方の活動をはじめ、これから始めたいという方の相談も、引き続き支援していきます。イベントの感想やその後の活動の報告なども、拠点でお待ちしております！



参加者の声

- 「座学と実践が一緒になっていて、大変役に立ちました。」
- 「事例がわかりやすく、自分にもできるかもと希望がもてました。」
- 「人から客観的な意見を聞く大切さを学びました。」
- 「発表されている方々の熱が伝わってきた。」
- 「専門家からのフィードバックも参考になりました。」
- 「みなさん本気で充実した時間でした。」
- 「反省点はありますが今後の糧にします。」

❶ チャレンジの先輩に聞く! 活動を始めるヒントvol.7

子ども会の会長から 防災NPO法人代表へ

大槻 由美さん

(防災士、NPO法人とれじゅーBOX 理事長)



ボランティアのイメージを変えた、海外生活

防災士としてクレオ大阪をはじめ大阪市内各地域で活躍中の大槻さん。子ども会会長から地域活動を経て防災士となり、NPO法人とれじゅーBOX理事長として多忙な日々を送っておられます。そんな大槻さんの活動のルーツは、意外にも夫の海外転勤に同行して過ごしたシンガポール時代にありました。当時、大槻さんは生まれて間もない双子の育児真っ最中、しかも英語力ゼロという状況で、いきなりのシンガポール生活が始まりました。ある日、異文化のストレスに疲れ切っていた大槻さんに運命的な出会いが訪れます。

「困った時は差し伸べられた手をしっかりつかんでいいのよ」と、ある外国人の女性からの一言で自分の周りがぱッと明るくなりました。自分もいつか困っている人に手を差し伸べられる存在になりたい、と強く思った出来事だったそうです。

地域活動から「防災士」の道へ

帰国後大槻さん一家が暮らすことになった地域は約1万人が暮らすニュータウンでした。地域活動には常に新しいアイデアや知恵、エネルギーが求められる一方で、新参者が入りにくいのも現実。大槻さんは、まずこれまで地域活動を支えてきた“先輩方”との信頼関係を築くこと。そして、今ある活動を知り、できそうなことはお手伝いさせてもらう、という柔軟な感性



がとても重要だと考えました。徐々に地域に顔見知りができ、地域活動の経験も少しずつ積み重ねた頃、地域のソフトインフラとして防災に取組むチャンスが訪れます。これまでに少しずつ信頼関係を積み重ねてきた

“先輩”からの勧めで、地域を代表して2009年に防災士資格を取得。以来、同時期に防災士となった仲間とともに女性の視点、親の視点に立った防災意識の啓発やオリジナルの防災講座の企画運営の経験を経て、行政と地域と人を防災でつなぐ役割を担っていくこと

になります。防災士として活躍される大槻さんの原点は、まさにシンガポールで学んだ「困った時は助けてもらう、助けられる時は手を差し伸べる」というボランティアの考え方。思いがけず取得することになった防災士資格が、地域に根付く大きなきっかけになったそうです。

地域は「宝の箱」という視点

地域活動の一環として始まった防災の取組みが、多方面から注目を浴びるようになり、2012年にNPO法人とれじゅーBOXを設立されました。居住地域だけでなく大阪府内の各地域でも講演活動や防災イベントを開催しておられます。「トレジャー・ボックス」とは「宝箱」のこと。地域は人という宝が詰まった宝箱という視点で、日々暮らしているからこそ気づく、支援が必要な人、支援できる人の存在を地域の防災に生かすこと、そして災害が起きた後も共に支え合い立ち上がる地域をめざすことの重要性を発信されています。今後は未来の防災の担い手としての子どもの役割に注目し、学校での防災教育と行政と地域をつなぐ取組みを進めていきたいとのことです。

シンガポール生活～地域活動～防災士という大槻さんのキャリアを振り返ると、当時は身近に相談できる場所がなく試行錯誤の繰り返しだったそうです。【女性チャレンジ応援拠点】には、「ここに来れば誰でも本音で話せる、時には他人の失敗からも学べる場所」として多くの方の想いに寄り添える場所になればと期待を寄せてくださいました。大槻さんの座右の銘は、「地域活動のリーダーたるもの、雪の“ちり”であれ」。美しい雪の結晶のはじまりは小さな“ちり”。そこに水の分子がどんどんつながっていくことで、雪の結晶は作られます。雪の結晶が大きくなるほどに“ちり”は存在するわからなくなる。地域の活動はそういう見えない存在によって支えられていること、自分もそうありたいという想いが詰まった素敵なお言葉だと感じました。



NPO法人とれじゅーBOX 大阪府堺市南区新檜尾台1-4-15

<https://www.facebook.com/NPOTbox/>

♣ イベントのご案内



魅力が伝わる 人が集まる

届く！【広報】のコツ&ランチ交流会

「企画をしたものの、人が集まらない」「対象にちゃんと届いているか分からず」
そんな悩みを抱えていませんか？

学生時代の体験をきっかけに社会活動を始め、広告代理店勤務を経て、今やソーシャルビジネスの分野で広く活躍されている講師から、基本的な広報プロセスの考え方や広報ツールの効果的な活用、心に響くキャッチコピーのポイントなどをうかがいます。終了後は情報交換のためのランチ交流会も開催します！



講 師：菊池 信孝さん（NPO法人インターナショナル代表）

日 時：平成29年11月18日（土曜日）10時～13時 ※12時15分～交流会

会 場：クレオ大阪中央（地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘」より徒歩約3分）

定 員：40名（申込先着順）

参加費：500円

対 象：地域活動・社会活動に参画する意欲を持つ女性

申 込：電話・FAX・メールにて、イベント名・氏名・連絡先（電話・ファックス番号）を事務局へ。



ミニサロン 参加無料

拠点に人が集まり、知り合うきっかけになる、ミニ講座やおしゃべり会を随時開催しています！拠点の雰囲気が知りたい方、他の人がどんなふうに活動を始めたのかを聞いてみたい方、自分の活動についても話がしてみたい方、情報交換したり一緒に作業をしたりしながら、みんなでおしゃべりしてみませんか。開催情報は、ホームページ、Facebookでご確認ください♪



おとのぬり絵サロン

過去のミニサロンテーマ（一部）

- はじめてのブログの書き方
- おとなのぬり絵サロン
- マンション管理組合トーキーク
- 私のおすすめ本・もちより会
- わたしを想うカフェ時間 などなど



はじめてのブログの書き方



私のおすすめ本・もちより会



私もこんなミニサロンを開催してみたい！というアイデア・企画がある方は、
チャレンジ応援拠点へお越しください♪



イベント情報、拠点ニュースなどなど…
各種、情報発信しています！

ホームページは
こちらから



facebookは
こちらから



LINE®はじめました！
友だち登録ははこちら



編集・発行 **女性チャレンジ応援拠点**

場所 大阪市天王寺区上汐5-6-25

クレオ大阪中央 4階

電話・FAX 06-7659-9640

e-mail women-kyoten@danjo.osaka.jp

運営団体 **大阪市男女いきいき財団**

♣ 開室日

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休室

火	水	木	金	土
10：30	18：00	13：00	10：30	13：00
12：30	20：00	15：00	12：30	15：00

開室時間内は自由に出入りいただけます。お気軽にお立ち寄りください。

